

## 村上市総合計画審議会 議事録

会議名	第8回 村上市総合計画審議会																																																																																									
年月日	平成28年4月27日(水) 14:00~15:55																																																																																									
会場	村上市生涯学習推進センター 大会議室																																																																																									
出席者	<p><b>【委員】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">荒川地区地域審議会</td> <td style="width: 20%;">会長</td> <td style="width: 30%;">会田 健次</td> </tr> <tr> <td>村上市観光協会 一般公募</td> <td>会長</td> <td>浅野 謙一(欠席) 板垣 真</td> </tr> <tr> <td>神林地区地域審議会</td> <td>会長</td> <td>大嶋 芳美(欠席)</td> </tr> <tr> <td>朝日地区地域審議会</td> <td>副会長</td> <td>大滝 重秋(欠席)</td> </tr> <tr> <td>村上商工会議所</td> <td>副会頭</td> <td>大滝 慎一(欠席)</td> </tr> <tr> <td>一般社団法人村上市建設業協会</td> <td>会長</td> <td>加藤 幹司</td> </tr> <tr> <td>特定非営利活動法人おたすけさんぼく</td> <td>理事長</td> <td>加藤 英人</td> </tr> <tr> <td>新潟県村上地域振興局 一般公募</td> <td>局長</td> <td>小泉 良彦 佐久間 成一</td> </tr> <tr> <td>一般社団法人村上市岩船郡医師会</td> <td>会長</td> <td>佐々木 誠司(欠席)</td> </tr> <tr> <td>社会福祉法人村上市社会福祉協議会</td> <td>会長</td> <td>佐藤 芳男</td> </tr> <tr> <td>村上市地域農業活性化検討会</td> <td>座長</td> <td>忠 聡</td> </tr> <tr> <td>山北地区地域審議会</td> <td>会長</td> <td>富樫 保晴(欠席)</td> </tr> <tr> <td>村上公共職業安定所</td> <td>所長</td> <td>長柄 肇</td> </tr> <tr> <td>村上市金融団</td> <td></td> <td>畑山 政浩</td> </tr> <tr> <td>村上市岩船郡PTA協議会</td> <td>理事</td> <td>八藤後 瑞枝</td> </tr> <tr> <td>村上地区地域審議会</td> <td>会長</td> <td>山口 治雄</td> </tr> <tr> <td>学校法人北都健勝学園新潟リハビリテーション大学</td> <td>学長</td> <td>山村 千絵</td> </tr> <tr> <td>村上地域水産業再生委員会 一般公募</td> <td>会長</td> <td>脇坂 三重城 渡辺 ひろみ</td> </tr> <tr> <td>NPO法人希楽々</td> <td>ゼネラルマネージャー・副理事長</td> <td>渡辺 優子(欠席)</td> </tr> </table> <p><b>【事務局】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">村上市 政策推進課</td> <td style="width: 20%;">課長</td> <td style="width: 30%;">渡辺 正信</td> </tr> <tr> <td>村上市 政策推進課</td> <td>参事</td> <td>木村 祐二</td> </tr> <tr> <td>村上市 政策推進課 企画政策室</td> <td>課長補佐</td> <td>東海林 豊</td> </tr> <tr> <td>村上市 政策推進課 企画政策室</td> <td>副参事</td> <td>田中 和仁</td> </tr> <tr> <td>村上市 政策推進課 企画政策室</td> <td>係長</td> <td>田村 政和</td> </tr> <tr> <td>村上市 政策推進課 企画政策室</td> <td>主査</td> <td>大矢 透</td> </tr> <tr> <td>村上市 政策推進課 企画政策室</td> <td>主査</td> <td>酒井 智律</td> </tr> <tr> <td>村上市 政策推進課 企画政策室</td> <td>主任</td> <td>石平 悠佳</td> </tr> </table> <p><b>【コンサルタント事業者】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">エヌシーイー株式会社</td> <td style="width: 30%;">都市環境部</td> <td style="width: 20%;">土橋 佳代</td> </tr> <tr> <td>エヌシーイー株式会社</td> <td>都市環境部</td> <td>中澤 元孝</td> </tr> </table>			荒川地区地域審議会	会長	会田 健次	村上市観光協会 一般公募	会長	浅野 謙一(欠席) 板垣 真	神林地区地域審議会	会長	大嶋 芳美(欠席)	朝日地区地域審議会	副会長	大滝 重秋(欠席)	村上商工会議所	副会頭	大滝 慎一(欠席)	一般社団法人村上市建設業協会	会長	加藤 幹司	特定非営利活動法人おたすけさんぼく	理事長	加藤 英人	新潟県村上地域振興局 一般公募	局長	小泉 良彦 佐久間 成一	一般社団法人村上市岩船郡医師会	会長	佐々木 誠司(欠席)	社会福祉法人村上市社会福祉協議会	会長	佐藤 芳男	村上市地域農業活性化検討会	座長	忠 聡	山北地区地域審議会	会長	富樫 保晴(欠席)	村上公共職業安定所	所長	長柄 肇	村上市金融団		畑山 政浩	村上市岩船郡PTA協議会	理事	八藤後 瑞枝	村上地区地域審議会	会長	山口 治雄	学校法人北都健勝学園新潟リハビリテーション大学	学長	山村 千絵	村上地域水産業再生委員会 一般公募	会長	脇坂 三重城 渡辺 ひろみ	NPO法人希楽々	ゼネラルマネージャー・副理事長	渡辺 優子(欠席)	村上市 政策推進課	課長	渡辺 正信	村上市 政策推進課	参事	木村 祐二	村上市 政策推進課 企画政策室	課長補佐	東海林 豊	村上市 政策推進課 企画政策室	副参事	田中 和仁	村上市 政策推進課 企画政策室	係長	田村 政和	村上市 政策推進課 企画政策室	主査	大矢 透	村上市 政策推進課 企画政策室	主査	酒井 智律	村上市 政策推進課 企画政策室	主任	石平 悠佳	エヌシーイー株式会社	都市環境部	土橋 佳代	エヌシーイー株式会社	都市環境部	中澤 元孝
荒川地区地域審議会	会長	会田 健次																																																																																								
村上市観光協会 一般公募	会長	浅野 謙一(欠席) 板垣 真																																																																																								
神林地区地域審議会	会長	大嶋 芳美(欠席)																																																																																								
朝日地区地域審議会	副会長	大滝 重秋(欠席)																																																																																								
村上商工会議所	副会頭	大滝 慎一(欠席)																																																																																								
一般社団法人村上市建設業協会	会長	加藤 幹司																																																																																								
特定非営利活動法人おたすけさんぼく	理事長	加藤 英人																																																																																								
新潟県村上地域振興局 一般公募	局長	小泉 良彦 佐久間 成一																																																																																								
一般社団法人村上市岩船郡医師会	会長	佐々木 誠司(欠席)																																																																																								
社会福祉法人村上市社会福祉協議会	会長	佐藤 芳男																																																																																								
村上市地域農業活性化検討会	座長	忠 聡																																																																																								
山北地区地域審議会	会長	富樫 保晴(欠席)																																																																																								
村上公共職業安定所	所長	長柄 肇																																																																																								
村上市金融団		畑山 政浩																																																																																								
村上市岩船郡PTA協議会	理事	八藤後 瑞枝																																																																																								
村上地区地域審議会	会長	山口 治雄																																																																																								
学校法人北都健勝学園新潟リハビリテーション大学	学長	山村 千絵																																																																																								
村上地域水産業再生委員会 一般公募	会長	脇坂 三重城 渡辺 ひろみ																																																																																								
NPO法人希楽々	ゼネラルマネージャー・副理事長	渡辺 優子(欠席)																																																																																								
村上市 政策推進課	課長	渡辺 正信																																																																																								
村上市 政策推進課	参事	木村 祐二																																																																																								
村上市 政策推進課 企画政策室	課長補佐	東海林 豊																																																																																								
村上市 政策推進課 企画政策室	副参事	田中 和仁																																																																																								
村上市 政策推進課 企画政策室	係長	田村 政和																																																																																								
村上市 政策推進課 企画政策室	主査	大矢 透																																																																																								
村上市 政策推進課 企画政策室	主査	酒井 智律																																																																																								
村上市 政策推進課 企画政策室	主任	石平 悠佳																																																																																								
エヌシーイー株式会社	都市環境部	土橋 佳代																																																																																								
エヌシーイー株式会社	都市環境部	中澤 元孝																																																																																								
[進行]事務局	<p><b>1. 開会</b>          〈欠席委員の確認〉          ・浅野委員、大嶋委員、大滝重秋委員、大滝慎一委員、佐々木委員、富樫委員、渡辺優子委員の7名が欠席。</p>																																																																																									

忠会長	<p>2. 会長挨拶 〈あいさつ〉</p> <p>3. 委嘱状の交付 〈事務局から新委員の小泉委員、佐久間委員、畑山委員へ委嘱状を交付〉 〈新委員自己紹介〉</p> <p>4. 議事 (1) 第2次村上市総合計画の基本構想骨子について(資料1～4)</p>
[説明]事務局	(事務局が資料1・2を説明)
加藤英人委員	資料1の真ん中の部分が3つあるわけですが、その説明のところで1段目と2段目となっていて、資料2の1ページの真ん中で、左と右に分かれているので、この関係というのは、全て「何々のまち」というところに掛かってくるということなのではないでしょうか。
忠会長	いかがでしょうか。質問の意味、分かりましたか。加藤委員、もう一度、お願いします。
加藤英人委員	この資料2の真ん中(中段の「込められた意味」)を見ていただきたい。この一番上の「思いやりの心と故郷の誇りを育む」というのが、「まち」に掛かってくるということですね。後ろの方の、ということなんですけれども。
忠会長	後ろというのは、「人を育て、人が育つ」の「まち」ということですね。
加藤英人委員	「まち」なのか、「まちをつくる」に掛かるのか。そして見ていくと、2段目の「強い産業が賑いと輝きを創り出す」であって「まちをつくる」とある。この辺の関係がどうなのか、聞かせてもらいたいと思います。
事務局	<p>ここは一体の形で考えていました。育むまちをつくるというよりも、理念として一つのフレーズの様な形でつくりました。</p> <p>ただ、言葉の中で最終的にはそういうまちをつくりたいということの表れです。加藤委員のおっしゃったとおりになるかと思いますが。なかなか、言葉のフレーズをつなげるのに工面しまして、最終的にこういう形に落ち着いているということになります。</p>
加藤英人委員	ここには書いていないのですけれども、左のことをやることによって右の状況になるよという矢印的な意味なのですか。
事務局	そうです。そう思っていたきたいと思います。
忠会長	ありがとうございました。この資料そのものが計画の中でどういう取り扱い方になりますか。つながりとしては、この資料1が前面に出てくる形ですか。
事務局	資料1が前面に出てくる形になるかと思いますが。
忠会長	それを細かく説明すると資料2になるということで、この資料2だけが表に

	出てくるということではないですよ。
事務局	その通りです。
忠会長	そのようにしていただきたいと思います。他にいかがでしょうか。
山口委員	1番でも2番でもいいのですけれども、基本理念ということで解釈しますと、「育む」「広げる」「創る」、これは、何か今現状のものが前に進んでいる様でこれは確かにいいのですけれども、村上というのはとても良いまちです。それを守っていくという、「守る」というものを、この基本理念の中に盛り込むと分かってくるのかなと感じます。あまりにも、創るとか、広げていくというのは、分かっているのだけれども、現状を否定するようなところも少し感じられたものですから、良いまちを守る。そして、守っていくことを広げるというような、分かりやすい表現が欲しいと思います。以上です。
事務局	資料2の部分にそういう守りの部分も込めて、資料2の中段より下のところに、大きく丸をつくったところに伝統を守って、何かを付け加えて広げていくというようなものを入れたのです。確かに「守る」という言葉も非常に大事だと思いますが、総合計画をつくる、もしくは総合戦略をつくるときに、守るという言葉が逆のイメージに捉えられることもありまして、守ることが大事ということもあるのですが、逆に攻めが足りないとも考えました。守るという言葉が他のものでもたくさん出てくるのですけれども、逆に攻めるというのはなかなか出てこないところもありました。「守る」という部分は、「育む」というところに包含したという形をとらせてもらいたいと思ひまして、3つにまとめました。
山口委員	「育む」がある。育むというのは、一つ、守るということも意味していることですね。エネルギーということでも考えましょう。
忠会長	確か、前回の審議会のご議論の中で、いろんなご意見をいただいたときに、もう少し強い言葉があったほうがいいのではないかとというのが、皆さん方の意見の端々に受け止められた気がします。今、山口委員の「守る」というのは、伝統をさらにということを十分に踏まえながら、事務局が説明したような受け取り方にさせていただければと思います。 スローガンも、やさしさと「輝き」となるのか、「ときめき」となるのか、これも議論になるところです。それが満ちたというのは、ある意味での、豊富な価値がそこに存在しているという、そういう受け止め方もあっていいのかと思いますがいかがでしょうか。
山口委員	分かりました。
加藤幹司委員	スローガンの説明のところで「輝き」「ときめき」、これはこれからの協議だという話が出ました。スローガンは、情緒的な言葉を並べたほうがいいのかと感じます。どうしても何か、よそ行きな響きが伝わってくるのです。基本理念の2番目、「強い産業」とありますが、「強い産業が賑わいと輝きを創り出す」という言葉があります。この強いというのは、文章の中で突出して厳しい言葉かなと、ちょっと違和感があるのでこの辺のところの表現の工夫というものを、ぜひ考えたらいかがかと思ひます。

忠会長	どうでしょうか。事務局としてはどう受け止めましょうか。
事務局	あまりにも強いという言葉に違和感を感じるのであれば、またそれに代わるものが必要だと思いますが、実際のところ、今までの中で、産業について、総合戦略もそうでしたけれども、今の流れがいかに関業を盛り立てていくかというところに時代は集中しております。その中で、やはり強さみたいなのところを前面に出していかないと、なかなか今後の活性化みたいなのところに、また同じかと捉えられると思ひまして、そういう部分では「強い」という言葉や、後から出てきますけれども、賑わいも「押し寄せるような」という表現を使ったり、前面に強い言い回しを使っています。その辺りで違和感があるのかもしれませんが、ある意味強めな表現を使っておりますので、その辺りも、ご意見をいただきたいと思っております。
忠会長	佐久間委員から手が挙がっています。よろしくお願ひします。
佐久間委員	これは私の意見という部分もあるし、紹介の部分もあるのですが、ほかの市町村に関しても総合計画は全部似かよったものです。どこも自然がいいとか、住みやすいとか、人情味があるとか、そういうことを言っている。たまたま、びっくりしたのがあるのですけれども、佐渡市は「全てを佐渡の未来と子どもたちのために」としてあります。分かりやすいじゃないですか。私、すごくこういうものが好きです。もやもやしているものだと、どうしても結果がもやもやしてしまいます。判断のしようがなくなるので、やはり、最初に出てくるスローガンは大事ですので、モヤッとしたものではなくてスキッとしたものにしてもらえればと思ひます。
加藤英人委員	今ほどの隣の加藤委員の、この「強い」に代わるかどうか分かりませんが、1次産業とか、自然環境とか、あの辺が関わってくると、「強い」に違和感があれば「豊かな」という言葉の表現であれば、自然や1次産業を含めた形にとられるのかなと思ひます。
忠会長	参考意見ということでお聞きしたいと思ひます。私から佐久間委員にお聞きするような形になりますが、佐久間委員がおっしゃった、「スキッとした表現」とは、やさしさと輝き、もしくはときめきという言い回しは、やはりそういうことからするとモヤッとしているということですか。
佐久間委員	特色がないということです。
事務局	いろいろな意見をお聞きする中で、他の総合計画などを見させていただいたときに、佐久間委員からありましたが、佐渡市は総合計画づくりをやめております。実は、佐渡市はビジョンをつくるということで、総合計画に代わって、もっと軽いというか、柔軟なものに変えようと佐渡市は考えておりますので、そういうことで思い切った取組ができるのかもしれませんが。 確かに総合計画の方は、ある意味、方向性を持った非常にシンプルなものがあるのもいいのではないかという意見もござひますが、多くの方に、万人に親しんでいただくというの、私ども総合計画をつくる上での念頭におかなくてはいけない部分もあります。そういった部分からも理解をいただきたいと思ひます。
忠会長	いろいろご意見をいただきましたけれども、今日はこの場でこれを決すると

	<p>ころまでを意図しておりません。いただいたご意見を尊重させていただきまして、事務局と会長、副会長に、この件についてはご一任をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>全員</p>	<p>はい。</p>
<p>忠会長</p>	<p>では「異議なし」と認めまして、次に行きたいと思います。なお、これに関しましては、いったん市長に答申をし、その後議会の議決を経て、初めて計画が成立するという話ですので、今後、またいろいろご意見があるということになっておりますので、それを含めていただきたいと思います。</p> <p>それでは関連するので、次の資料 No. 3 と 4 についてご説明いただいて、またその後にご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>[説明]事務局</p>	<p>(事務局が資料 3・4 を説明)</p>
<p>小泉委員</p>	<p>今、資料 3、4 ということでご説明いただいたのですが、ちょっと分かりづらかったのが資料 3 の「産業・経済」、「環境・都市形成」という順番になっていることです。これは何かといいますと、「創る」というのがもう一つ、上のテーマになっていますので、このテーマの出し方をしっかり書かないと、もう一つ前に戻らなければいけないので、基本的な見出しを書いておいてもらえればと思った次第です。</p> <p>4 については、政策分野には、いろんな内容があると思いますが、ひとつは道路の整備という点といっても、高速道路などの分野は、施策分野であります。例えば、賑わいのまちづくりとか、そういう分野にも関わってくるかと思えます。これは一つに入れたという部分だと思いますが、再掲という形をとってもいいかと思えます。</p>
<p>忠会長</p>	<p>ありがとうございます。いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>最初に、「創る」という部分の作り込みのあたりとの関連性をご指摘いただきました。私ども、先ほど、色分けということで、その辺の表現をしたところですが、クロスする部分が非常にありまして、例えば、安心安全につきましては先ほど申し上げましたが、避難所は安心安全だけと堤防とか、川を氾濫しないようにするのは逆に安心安全ではなくて、ハードの面で作る方ではないのかという部分もあり、クロスする部分が中にございます。そういった部分で、あまりガチガチにつくると、なかなか動きづらいところもありまして、モヤッとした部分もこの中に込めております。</p> <p>ただ、おっしゃったように、再掲という形を採るかどうか、これから帰って検討しなければいけないのですが、そうした部分でいろいろ分野ごとにまとめたとしても、各分野にわたる部分も出てくるのが考えられます。そういうところは調整をとりながら、あまり被ったことを言わないように、シンプルに作り込んでいきたいと思えます。その辺りのところは十分検討してまいりたいと思えます。</p>
<p>加藤幹司委員</p>	<p>先ほど申し上げたのですが、これも産業形態の「押し寄せるような人を呼び込み」とあるわけです。さっきも、「わき立つというような」という表現がありました。結局、第 1 次の総括がありますが、この第 2 次総合計画もいずれ総括されるのだらうと思えます。ですから、総括に耐えるような、ちょっと努力すれば手が届くような表現に改めるべきではないかということが第 1 点でありま</p>

	<p>す。</p> <p>第2点は、「環境・都市形成」の中段「計画的な上下水道の整備」があります。下水道につきましては、第1次総合計画の最終年度、つまり、今年でほとんど終わってしまうわけです。29年には一部の例外しか残っていない。今年中に整備されるということですから、それをあえて書くのはいかかなものかということをおもいました。</p> <p>それから3番目ですが、最後の6番目、「ひとりひとりが活躍する、市民が主役のまちづくり」というところの一番下、「未来型地方都市」とあるのですが、これをイメージできません。つまり、この未来型地方都市の、いかにあるべきかということをお、総合計画で練っているのではないかという気がするのですが、その辺のところをどう考えればいかご説明ください。</p> <p>まず、「押し寄せるような」という表現につきましては、実は私自身もこのあたりは悩みまして、よそを見ると「怒濤のように押し寄せる」という表現があったり、非常にこの辺は強い表現をしております。そこがやはり、今の時代といますか、モヤッとしたことを書いていると、なかなか「じゃ、何をするのか」というあたりで、ある意味、決意が感じられないということもあって、私自身も加藤委員と同じようにもうちょっと控えめに書きたいところはやまやまでしたが、やはりその辺を意識して強い言い方をさせてもらったところです。ただ、これがなかなか、合わないのではないかということであれば、また表現方法等を変えていきたいと思ひます。</p> <p>確かに下水道の整備につきましては、ほぼ完了致します。ただ、上水道、下水道を含めて、古いところであると更新が出てきます。特に水道施設は石綿管も全て入れ替える計画でありますし、それはあまりにも長い距離ですので、今後のためにも表記している状況です。下水道整備も、早いところではその時期を迎えておりますし、施設にあっては老朽化にも直面しております。そうした部分で更新するという言い方は、なかなかこの表現に合わないかなということで整備という形にしたことをご理解いただきたいと思ひます。</p> <p>もう一つ未来型地方都市です。実は、この表現も非常に頭を悩ませたのですけれども、未来型地方都市という中で、発展する地方都市の様なものを表現したものでございませぬ。人口減少にうまく対応する都市ということですから、それに対処することができる地方都市ということで未来型地方都市としました。ただ、これはあまりにも飛んだ表現だということであれば、その辺もご意見をいただきながら、修正をしていきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず、「押し寄せるような」という表現につきましては、実は私自身もこのあたりは悩みまして、よそを見ると「怒濤のように押し寄せる」という表現があったり、非常にこの辺は強い表現をしております。そこがやはり、今の時代といますか、モヤッとしたことを書いていると、なかなか「じゃ、何をするのか」というあたりで、ある意味、決意が感じられないということもあって、私自身も加藤委員と同じようにもうちょっと控えめに書きたいところはやまやまでしたが、やはりその辺を意識して強い言い方をさせてもらったところです。ただ、これがなかなか、合わないのではないかということであれば、また表現方法等を変えていきたいと思ひます。</p> <p>確かに下水道の整備につきましては、ほぼ完了致します。ただ、上水道、下水道を含めて、古いところであると更新が出てきます。特に水道施設は石綿管も全て入れ替える計画でありますし、それはあまりにも長い距離ですので、今後のためにも表記している状況です。下水道整備も、早いところではその時期を迎えておりますし、施設にあっては老朽化にも直面しております。そうした部分で更新するという言い方は、なかなかこの表現に合わないかなということで整備という形にしたことをご理解いただきたいと思ひます。</p> <p>もう一つ未来型地方都市です。実は、この表現も非常に頭を悩ませたのですけれども、未来型地方都市という中で、発展する地方都市の様なものを表現したものでございませぬ。人口減少にうまく対応する都市ということですから、それに対処することができる地方都市ということで未来型地方都市としました。ただ、これはあまりにも飛んだ表現だということであれば、その辺もご意見をいただきながら、修正をしていきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。</p>
<p>忠会長</p>	<p>よろしいですか。いずれにしても5年間という期限が定められた計画ですので、やはり加藤委員がおっしゃるように、これは到底、5年間では達成不可能だと思われるようなものについては、明確に言葉を選ばれたらいいと私も思ひます。</p> <p>それから、今ほどの未来型も、いろいろな言葉から連想する部分があります。今事務局がおっしゃったような意味合いのものであるとすれば、やはり、未来型という表現は少し無理があるような気がしますので、これも後ほど協議、相談させていただきたいと思ひます。</p> <p>他にご意見はありますか。山口委員、どうぞ。</p>
<p>山口委員</p>	<p>資料3の(2)環境・都市形成の部分の、今の上下水道も全部、前の「美しい自然景観の保全、都市景観の形成のため」と、これがいきなり、ハード事業</p>

事務局	<p>といいましようか、開発型につながっています。ここに大きな落差があるのに、なぜここにすぐに行ったのかなというところです。この辺、非常に私は分からないのでちょっと説明をお願いします。</p> <p>自然環境のところとハード事業のところとが合体しているのはなぜかということでした。逆に言えば、そこをちょっと狙ったところがあります。というのは、やはり自然環境を守りながら整備をしていく。逆に言えば自然環境を活かす整備というか、そういうものをここで表現していければなど考えました。というのは、景観という部分も中に入ってきますし、橋をつくる、何をやるにしても、やはり自然環境を見ながら、そういうものをつくっていくわけですので、そういう形で一体としてあれば、しっかりと来るのではないかと捉えました。</p> <p>逆に自然環境をどこに入れるかとなったときに、教育文化のところなのか、いろいろ考えますが、なかなか、ほかに入れようとしてもしっくりするところがありません。逆に自然環境の部分の一つ抜き出してしまうということになると、あまりにも範囲が狭いというか、環境部分に特化することになりますので、そうした部分であれば、景観づくりとか、そういうものと一体になったほうが逆に自然を壊すではないですけども、そういう部分と守る部分が一緒になって、いいまちをつくっていくというイメージを持ったものですから、そういうことでここは同居するというようにさせてもらいました。</p>
忠会長	<p>山口委員、どうでしょうか。</p>
山口委員	<p>分かりません。まだ分からない。これはこれで、意図とするものは、どういうものが、苦労というのは今分かりましたので、その辺でもう少し、私自身、勉強してみたいと思います。ただし、自然環境の保全保護と、開発というのは、なかなか難しいと思います。それをしっかり文書に書き加えられれば私は理解できます。難しいということだけはここに説明されたほうが、伝えやすいのかなと、今感じます。以上です。</p>
忠会長	<p>これ以上言及しないということですが、やはり調和というのがどこかに折り重なって、バランスがとれた言い方につながるのかなという気もします。検討、考えていただきたいと思います。他にありますか。渡辺委員。</p>
渡辺委員	<p>(4) 健康・福祉なのですけれども、下に「地域や団体とのネットワークづくりを進めながら、子育てを応援する地域社会の形成を目指します」という文言があります。ネットワークづくりを進めるための拠点的なものがないのかなと思います。そういう拠点づくりを進めながらというような文言というのは入らないのでしょうか。またはそういう計画はないのでしょうか。質問になってしまうのですが。</p>
忠会長	<p>いかがでしょうか。大事なところですよ。進めるのはいいけど、誰がどう進めるのか。誰がというのが抜けているのではという話ですが、どうぞ。</p>
事務局	<p>拠点づくりという話がありました。この場合であれば、ネットワークづくりをするのは、市民の方や団体の方、それから当然、市も合わせた形で進めていくということで、一方だけが進めるということは、なかなか人づくりの中ではないのかなと思います。今現在、総合戦略の中にある小さな拠点づくりということで、そのあたりの説明をしております。市もそうですけれども、地域の方がそこで高齢者のための支え合いの拠点として、今ある拠点を使ってやろうと</p>

	<p>いうことを画策しております。</p> <p>その中で高齢者だけではなくて、子どもたちの集会所とか、子どもたちのお母さんが来るようなところがあったり、高齢者とまたは小学生、学校が終わってから来るようなところにしようという構想を持ちながら、そういう拠点づくりをしています。そういうハードではないソフト的なものをここでは考えています。当然、ハード的なものも、そこの中には含まれますが、拠点づくりという言葉がないということであれば、そうした部分も加味しながら修正をしたいと思います。</p>
忠会長	<p>いろいろ文言が並んでいる中で、唯一固有名詞が、新潟リハビリテーション大学ということ掲げられていますが。山村委員、この点につきまして名指しで失礼なのですが、ご意見があればお願いします。</p>
山村委員	<p>名前を入れていただきまして本当にありがとうございます。本学だけ名前を入れていただいた意図は何かあるのでしょうか。</p> <p>昨年4月に村上市さんと包括連携協定を締結させていただきまして、それ以来、本当に地域連携の活動が本学でも活発化しております。あちこちから教員の講座を開いてくれとか、学生のボランティアに出てくれとか、たくさん要請が来ておりまして、引く手あまたで非常に忙しくしております。</p> <p>今年度からは、学生の授業の一環としましても、学生がいろいろな地域の、お祭りやら何やらに参加するの、単位として認めるような形での科目も設定させていただいております。</p> <p>あと入試に関しても村上地域の学生が入学してくる割合が非常に少ないので、来年度入ってくる学生からを対象としまして、地域特待生枠を創設させていただきました。優秀な学生さんであれば、最大4年間まで、前期分の学費を全て免除するというものを考えております。こういう形でかなり地域に貢献するような形で進めておりますが、あえてここに名前を入れていただきましてありがとうございます。</p> <p>あと、教育文化のところに入っておりますけれども、教育文化だけではなくて、健康福祉の分野におきまして、いろいろと地域貢献をさせていただいております。例えば、昨年度、国から大きな研究費をいただきまして、地域高齢者の日常生活機能を向上させるプロジェクトで地域活動を進めております。実際、今年度の5月、来月からですけれども、今まで転倒予防教室だけだったものが、今度新しく、食べる力をつける教室という形で、高齢者の摂食嚥下関係、食べたり飲み込んだりする、今すぐく肺炎予防が問題になっておりますけれども、そういう予防についても取組をしております。教育文化だけではなくて、健康福祉の分野でも今後貢献できると思っております。</p> <p>それで、ちょっとそのことに関してなのですが、資料3にある見出し部分です。こちらが先ほどの説明があった資料1の下段のところとリンクしているものとして、その下段の部分が中段の部分とまたリンクしていると思うのですが。並びと色分けのあたりの整合性が少ないなと思いました。中段の部分で「育む」と「創る」が下にあって、それをピラミッド型になっておりますので、それを進める形でどう広げるかとしたとき、下段の部分は「広げる」の部分が一番下に来ているということです。「育む」と「創る」がベースになって「広げる」がその上になる形になっていない。それを見たとき、資料3の並びの順がどうなっているのかなというところで一つ疑問に思いました。以上です。</p>
忠会長	<p>ありがとうございました。なぜリハビリ大学さんだけが、という逆質問があ</p>



事務局	<p>りました。後段のご意見は私もごもっともだと思います。見ていく上で少し無理があるなという感じがしました。どうぞ、事務局からお願いします。</p> <p>ここだけ名称を入れたというのは、先生のおっしゃるとおりで、連携をしているから入れた方がいいなということで、あえて入れさせていただいております。このような形で今後、いろいろなものが入ってくるのかなということを考えております。</p> <p>もう一つご質問がありました資料1の中段と、下段の配置といいですか、それがおかしいのではないかとということでした。それは十分認識しております。その辺も含めて配列が変わればよかったですのですけれども、急きょこれを色分けしたこともありまして、最初は色分けがなかったのですが、関連づけたほうがいいのではないかとということで、急きょ色分けをしました。</p> <p>また、その色分けも、一応リンクしているよということだけ表現したかったということで色分けしました。配置がちょっと違うことや、連携の意味で「育む」「創る」のところにちょっと無理があるのではないかとのご意見でありました。今は6つの基本目標の中で取り組もうとしているので、「6つの基本目標の中で調整」をしたいと思います。配置が違うということであれば、また配置を取り替えたりして修正したいと思います。</p>
忠会長	<p>山村委員、よろしいでしょうか。そこは少し検討を加えさせていただきます。</p> <p>金融団の畑山委員さん、もしくはハローワークの長柄委員さんからもご意見をいただきたいと思います。今回の産業経済という部分を、実は私は1番目にもってきてほしいと事務局に申し上げておりました。従って、この順番に私はこだわりを持っております。資料で示しております。特に資料4ですが、農林水産業はともかく、商業、工業、観光ですが、今回新たに総合産業振興ということで、ご案内のように農林水産業においては、単なる原料生産ではなくて、地域経済と密接につながりを持ちながら、それを2次、3次産業につながる、いわゆる6次産業化に向けてということが、今施策としても捉えられております。こういう観点から、ぜひこの総合計画に織り込んでいただきたいという思いを持って、今回の提案にしてもらっています。</p> <p>皆さま方のお立場から、村上市の産業振興あるいは経済振興について、日ごろ、お考えがあれば、述べていただければ、大変参考になるのでよろしくお願いします。</p> <p>どちらからでも結構です。畑山委員さん。</p>
畑山委員	<p>今ほどお話をいただきましたように、産業経済がトップに出てきているのは、非常に重要なことではないかと、私自身も考えております。村上市の人口ビジョンの資料を拝見させていただきましたけれども、高校生がどんな村上市であれば暮らしたいと思いますかというアンケートに答えた中では、「やりがいがあり、一定の収入が得られる職場があれば村上で暮らしたい」という答えをした方が4割くらいいらっしゃいました。逆説的に申し上げれば、こういう機会がなかなか得られないので、村上にいたいだけでも村上にいることができないと思っている方が多いのかなと思われます。</p> <p>そういう中で高校生だけではなくて、20代、30代、40代の方、全てそうだと思いますけれども、生活の基盤がある程度豊かなところと考えるのは無理からぬことだと思いますので、一定の物事を何か成し遂げる意味でも、やはり安定した生活ということが一つの基盤としては重要なことだと思いますので、この産業経済ということが前面に出ているということは、私は非常に有意義なことだと考えております。以上です。</p>

<p>忠会長</p>	<p>ありがとうございます。平成 26 年の「経済センサス」によりますと、この村上市内には民間企業が約 3,500 事業所あります。その半分は個人事業所ということになっております。なお、男女合わせて約 24,000 人が働くという状況ですけれども、今、畑山委員がおっしゃったように安定した生活基盤を築くということからすると、やはり活力に欠けているのかなと思います。長柄委員からもご提案があればお願いしたいと思います。</p>
<p>長柄委員</p>	<p>この総合計画の審議の前に、一昨年に市民アンケートを採った中で、一番、雇用環境がこの村上市の場合は不安があるし、今後の課題としても大いに検討すべきだという意見が多かったと記憶しております。</p> <p>産業経済が非常に重要だというのは、私も当然そう思いますけれども、総合計画のつくりとして、資料 2 の基本理念のテーマ「育む」「創る」「広げる」というのは、おのずと一つの、これはそういう順番なのだろうかというのは、一方であるのです。産業経済を決して批判するわけではないのですけれども。</p> <p>そういった形で育むがあつて、創るがあつて、そこから広げていくと。その言葉の流れでいくと、この基本目標の内容で、1 番に産業経済とか、環境都市とくるのは、内容は別として、順番的にはおかしいのかなと思います。そういう感じがするので、その辺の整合性をとっていただいた方がいいのかなと思っております。</p> <p>なお、産業経済というのは、雇用環境の点でいえば、雇用環境そのものだけを改善するというのは非常に難しい話だと思います。事業主に賃金を上げろとか、もう少し労働時間を短縮しろとなると難しくなってきます。それだけを迫っても、これはなかなか難しい話であつて、ここで述べられているように、この地域の産業全体の力がなければ、賃金を上げたり、労働時間を短縮したりというのはできないわけです。そういう周りとの連携、周りの力によって、結果として雇用環境が徐々に変わっていくのかなと思います。</p> <p>雇用対策協議会等を通じて、地域の企業の皆さまには、少しでも賃金とか労働時間だけではなくて、職場環境を、働きがいのある、働きやすい職場にしていきたいという意識づくりは、ぜひ市のトップからも援助していただきながら、施策の一部にしていきたいと考えております。</p> <p>ちょっととりとめのない話ですが、総合計画のスローガンなり、基本テーマの流れからいくと、この資料 3 の順序立てはもう少し検討したほうがいいのではないかと思います。以上です。</p>
<p>忠会長</p>	<p>貴重なご意見だと受け止めさせていただきまして、後ほど事務局と十分相談させていただきたいと思います。</p> <p>さて、この部分については、いかがでしょうか。では、板垣委員からご意見をいただきまして、この部分についての議論を収束させたいと思います。板垣委員、よろしく申し上げます。</p>
<p>板垣委員</p>	<p>今の資料 3 についてですが、基本目標の見出しについては、いいと思います。今の事務局案の前段、今後の総合計画の成果品として、表に出てくると捉えた方がいいのでしょうか。</p>
<p>忠会長</p>	<p>ご回答をお願いします。イメージ図との関係性も含めてお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>イメージ図については、資料のところにあるものは、あくまでもイメージ図で、成果品にはこういう形になるという感じでは、必ずしもそうではありません</p>

	<p>ん。今現在考えられるのを、こういうふうに落としていくと、各分野の計画が一つ一つ、1ページ見開きでなったときには、こういうイメージになって、今後の5年間をこのようにやっていくよというのが分かるような、総合計画の中味にしたいと考えております。</p>
忠会長	<p>資料3の取り扱いは、それと関連性はどうか。</p>
事務局	<p>資料3の取り扱いにつきましては、今現在のベースをここに載せております。ただ、今の段階ではこれが最終形ではありません。ここにいろいろ、各課の取組などを入れ、市が、これをベースラインとして、ここに新たに新しい言葉を入れたり、新しい施策が入ってきたりということになります。先ほどのリハビリテーション大学のように固有名詞が入ってくることはあると思います。最終形ではございませんが、基本構想の中にこういうものが今後5年間の目標ですというのが出てくるという形になろうかと思えます。</p>
板垣委員	<p>基本目標ごとに丁寧に説明するところがあるので、重複する部分は大いにあると構わないと思いますが、その説明が見出しに対する説明というのを、要約した資料4があるわけですが、その説明自体が、もう少し簡潔なほうが、たぶんスッと入るのではないかと思います。全体的になかなか、例えば、国語力のある方だと、ずらっと長く文章があっても分かるのでしょけれども、ちょっと読み進めていくうちに、表現が主語がどこに来たかが分からなくなってしまいます。例えば、産業経済の中段に「新たな分野や販路からの起業や創業を行うこと後押しすることで」となった場合、起業や創業を後押しすることがいいのかなとか、下段の4段目、産業経済の下の場合だと「押し寄せるような人を呼び込み、活力を創る力を高めます」よりも、「活力を高める」、あるいは「活力を創る」の方がきちっと入ってくるのかなと思います。例えばなのですけれども、私のような者でも分かりやすくなるのかなと思うので、もう少し緩和したところがあれば、一般市民にも入るのかなと思いました。それで、これをお尋ねしたところでした。</p>
忠会長	<p>字句、細かい言い表し方については、さらに検討を加えて、ボリュームを膨らませるのではなくて、コンパクトにストレートに伝わるような表現にしたかどうかと、そんな受け止め方でよろしいでしょうか。事務局、いいですね。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p>
忠会長	<p>いかがでしょうか。他にどうしてもというご意見があれば、お受けしますが、いいですか。加藤委員。</p>
加藤英人委員	<p>資料4の、先ほど会長が言われた総合産業振興のところ、農林水産業と商工業の連携はいいと思いますけれど、その後のところです。農業と観光の連携とありますが、ここもやはりこの地域には農林水産業がありますし、いろんな、山だったり海だったり考えられるので、農業だけではなくて、農林水産業としていただいた方がいいのではないかと思います。</p>
忠会長	<p>それはごもっともだと思います。よろしくお願ひします。佐藤委員お願ひします。</p>
佐藤委員	<p>副会長ですので発言を控えていました。ちょっとよく分からないと思うので、</p>

事務局	<p>事務局に1つだけお聞きしたいと思います。基本目標のところの政策分野です。政策分野に1 2 3 4 5 6となぜ番号をつけなければならないのか。私が思うのは各セクションが一番入れてもらいたいと思えば、1にしたいという要望があると思うのです。会長がおっしゃったように産業を第一にもってきてもらいたいというのがあると思うのです。</p> <p>私が妙に感じたのは、なぜ政策分野1なのか、政策分野2なのか。順位制ではないと、私は思うのです。ですから、政策分野のところは数字をつけなくてもいいのかなと思います。</p> <p>例えば、ABCでもいいし、A分野でもいいと思います。その分野に名前を付けなければいけないのだったら、分野1としないで、分野のところを「農業振興」とかありますから、そういうふうにすればいいと思います。なぜか、どうもこだわるのですけれども、1 2 3 4 5 6という数字が順位制を表すと見られてしまうとまずいと思いました。これは何か制約があるのでしょうか。</p> <p>特に番号に制約はありません。ですが、一番最初にお配りした、総合計画書を見ていただくと分かるとおり、1-1-1とか計画体系をつくる時に、取りあえず番号で表したほうが、1-1はここだと見出しとして探しやすくなります。ただ、副会長がおっしゃるように、番号を付けることによって各分野、それぞれの順位がつくような感じがするということになれば、またその部分も合わせて、また協議になるかと思えます。特に、ここで言う番号については、意図はありませんでした。むしろ、今後、いろいろな細部の計画をしていくときに、番号を、符号のような形でつけていくということでありまして、決して重要な施策の序列を表しているものでは全くありません。そのところをご理解いただきたいと思えます。</p>
佐藤委員	<p>分かりました。見た人が、一番上にあるから大事なんだとか、単純に受け止める方もおられるのではないかと思ひ質問しました。</p>
事務局	<p>補足ですが、資料1番の一番下の体系のところ、丸で円があるような形になっていますが、これもどこにどれを置くかというのが悩みどころです。先ほど副会長が言ったとおりで、ここに置かれるイメージについても、そういった部分が関連してくるのかなと思っています。</p> <p>例えば、下がどうなのか、上がどうなのかということもあります。これは平面の円にあるようなイメージを持ってつくったわけです。その辺がどう皆さんに理解していただけるかというのは、今後検討していかなければいけないなと思っています。順番も含めて、皆さんにご意見をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。</p>
忠会長	<p>今の佐藤副会長からのご意見もごもつともです。決して会長、副会長の仲が悪いわけではなくて、私の思いが強すぎたかなと、反省をしています。長柄委員からもご意見がありましたように、表現する上で、整合性のとれた、バランスのとれた形で扱ったらどうだというご意見と一致する部分があるかと思ひますので、事務局と会長、副会長でよく相談して、示していきたいと思ひますのでご理解いただきたいと思ひます。</p> <p>まだご意見があろうかと思ひますが、この議事(1)につきましては、ここで締め切りにさせていただきます。ご協力ありがとうございました。</p> <p>(2) 第1次村上市総合計画の総括について(資料5)</p>

加藤幹司委員	<p>質問致します。これを読ませていただきますと、第1次総合計画の計画年度、あと1年少々残っているわけですが、この文章の末尾がほとんど「必要がある」ということで結ばれているわけです。必要があるというのは、この1年間で達成できるのか。それともやり残して第2次計画に委託するのか。この辺が全く分からないということです。</p> <p>この総括というのは、本来なら評価とか検討も含めた中で行うべきであろうと思うのです。ですから、もうちょっと、みんな必要があるということでやってしまうと、第1次計画は途中で第2次でやればいいのかという形になってしまいます。その辺が分かっているがらの中間報告だったので、これからこれを活かしていくというのは、どこまでやれるのかということをお聞きしたいと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。1年というよりも、こうした視点を踏まえて第2次総合計画に取り込んでいくというイメージを、私どもの方は持っています。総合計画審議会の皆さんからこれまでに出た意見や視点、それからアンケートの結果や地域審議会からいただいた答申等を合わせて2次に向かっていくことをこれから各課に持っていくわけです。</p> <p>ただ、第1次総合計画の評価につきましては、また4年経ちますと、最終年度にそれぞれの事業が目標値に達しているかをまた検証しますので、そうした部分からは、それぞれ評価をすることになるかと思えます。この辺で、全体的なまとめをしないと第2次総合計画にそれを取り込むという作業ができなくなる可能性がございます。そうした意味から、ここで振り返りをやめて、新しく第2次総合計画にそのエッセンスの様なものを取り込んでいく作業をするためにも、ここで整理し、第2次総合計画のつくりに行きたいという意図がありました。そういうことで、今回のこれを総括とさせていただきますということです。</p>
加藤幹司委員	<p>第2次総合計画のK P Iの単年度の評価シートということを知っているわけです。例えば、これは、総括するプロセスです。良かったとか悪かったとか、いろいろな経過が分からないので、どういう経過があって、必要があるという結びになったのでしょうか。この辺をどうやって第2次総合計画に取り入れるかが非常に大事なところだろうと思えます。費用対効果も考えながら、もっと具体的に、この政策については、非常によくやったが実効は上げられなかったとか、具体的な表現をやっていただけませんか、我々委員として、これを読んでここから何をくみ取れるのかと。どの程度の反映かというところがなかなか難しいと思っているわけです。</p> <p>庁内ではもっと具体的な議論をされたのだらうと思しますので、今後ぜひ、どういう理由でこれを繰り上げたのだらうということも、併せて説明いただければいいと思います。</p>
事務局	<p>すみません。今、具体的に、この中味を説明するのは非常に時間がかかると思えます。実際のところ、4年ごとに、各事業の評価をなささいということでやっています。1回目は24年度、25年度に各事業を評価しながら、達成されたかどうかを見ます。</p> <p>この次が、28年度、全部終わったときです。ただ、それを待っていると、なかなかその評価ができかねるということもあって、最終的にこれを評価するのは、評価しながら、それを第2次総合計画に取り込んでいくのだということで計画しておりましたので、その取り込み方について悩んだところでございます。この中で、今現在、医療の充実とか福祉の形成という部分で大きな枠で</p>

	<p>くるんだときに、行政の評価として、外部組織を入れないで行政の評価としてこうなったのだということを、各課、それから庁内含めて検討した結果が、短い表現ですが、こういう結果になったということです。</p> <p>必要があるという表現は、達成されていないと思われても結構です。その部分を、第2次総合計画ではちゃんと取り組みなさいということで、その意識づけの形になっているということになります。</p> <p>詳しい評価ということになりますと、評価の基準が第1次総合計画のときは、評価方法が非常に曖昧でした。第2次総合計画の評価は、じゃあ、どうするのだというあたりは、評価の手法までは書いておりませんで、手探りの中、4年ごとに事業計画の進捗を評価していたものです。</p> <p>その評価の仕方がない中で、行政の勝手な評価になったことだけ反省しておりますが、その反省点を第2次総合計画につなげるには、こういった方法でしか、今のところできなかつたということです。大変言いにくい部分もあるのですけれども、ここを反省点として、第2次総合計画の方にその部分を含めて考えていきたいと思っておりますので、ご協力いただければありがたいと思っております。</p>
忠会長	<p>これについては、地域審議会でもご意見があったようですが。会田委員、山口委員、この件についてご意見があればお願いします。</p>
会田委員	<p>各地域審議会がやっている、この第2次総合計画の策定に向けての提言は、私どもでも気になっている部分もあるのですが、この第1次総合計画の総括、ある一定の完成を踏まえたものと、それから、我々が提言したものを、第2次総合計画に反映させていただけるのでしょうか。その辺を確認していただきたかったのですが。</p>
事務局	<p>実は、地域審議会からは、提言という形で、子育てや医療などの分野ごとに取りまとめていただいた意見をいただいております。そのものにつきましては、いろんな意見を分解して、各セクションに分けてそれを踏まえて新たな5年間を考えるようにということで、今後の総合計画づくりをする上で資料作成をお願いするつもりですので、反映してくると思っております。</p>
山口委員	<p>私、村上地区の地域審議会から出ておりますけれども、この総括については、地域審議会の委員で、かなり真剣に議論していました。それで市長に答申するときに、総括の総論として、私から非常にまちづくりに関して市民の関心度が低い、総合計画も分かりにくいのではないかとということと、もう一つは、女性、若者の参画があまりにも少ないということを積み残しの部分ではないかということで市長に伝えたのです。何か施策の中で女性参画、若者、難しいのでしょうか。その辺をもう少し訴える場面があれば、ぜひとも表現していただければありがたいと思っております。</p>
忠会長	<p>ありがとうございました。加藤委員からのご意見に対して、事務局からもご異論があったわけです。確かに総合計画の中においては、検証、評価というのが非常に曖昧であったという反省もあったようですので、その反省を活かしながら、第2次総合計画では、これをいったん総括として受け止めて、積み残しの部分をさらに反映させていくということで理解いただきたいと思っております。そういうことでよろしいでしょうか。よろしいですか。</p>
加藤幹司委員	<p>あまりにも全施策にわたって必要があるということで、言われたものですから、第2次総合計画は、それを基にやるという話なので、それをしっかりやっ</p>

<p>忠会長</p>	<p>て、そういうことにならないようにしていただきたいと思います。以上です。</p>
<p>事務局</p>	<p>そういうご理解でございますがよろしいでしょうか。</p> <p>加藤委員に言われたものについて、ほとんど必要あり、達成できなかったんじゃないかというところなんですけれども、前回の総合計画は8年間ありまして、その中で今現在取り組んでいる新しいことが非常に多くございます。時代の流れるスピードが非常に速くなりました。なかなか、総合計画に盛っていないことにも対応していかなければならない部分もあります。</p> <p>そうしたことが必要になっているということもご理解いただきたいと思います。例えば、福祉の形成に一番下段のところ、コミュニティソーシャルワーカーという言葉が入っております。コミュニティソーシャルワーカーというのは、地域活動をされている方とか、いろんな地域の方を含めて福祉の輪を広げ、さらに障がい者や地域の弱い立場の人を支える体制づくりを形成する中心人物になっております。そうした視点は、到底、第1次総合計画には載っておりません。ですが、こういう視点も新たに入ってきて対応が必要になっていることがあります。全てが第1次総合計画が達成されていないのではなくて、新たにできた課題に対しても、この部分で述べているということも、「必要となっている」という表現に結びついているのかなと思っています。以上です。</p>
<p>忠会長</p>	<p>少し議論を深めたいのですが、時間です。大切なのは、第2次総合計画の中で、どれだけそういったことを、これまでの経過を踏まえて織り込むかということにつながるといいますので、そういったことをご理解いただきたいと思います。</p> <p>2番目の議題につきましては、以上で締めたいと思います。ご協力ありがとうございました。</p> <p><b>5. 次回審議会について</b></p> <p>※会長と事務局で日程調整し、後日各委員に報告することとした。</p> <p><b>6. その他</b></p> <p>※特になし。</p> <p>閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>